

「切除不能進行胃癌患者における予後予測因子に関する多施設 共同観察研究」へのご協力をお願い

代表者	所属：内科	職名：副院長	氏名：竹中 龍太
共同担当者	所属：内科	職名：部長	氏名：柘野 浩史
	所属：内科	職名：部長	氏名：堀 圭介
	所属：内科	職名：部長	氏名：高原 政宏
	所属：内科	職名：医長	氏名：熊原 加奈
	所属：内科	職名：医長	氏名：岡本 雄貴
	所属：内科	職名：医長	氏名：宮本 和也
	所属：内科	職名：主任	氏名：石田 正也
	所属：内科	職名：主任	氏名：平田 翔一郎
	所属：内科	職名：主任	氏名：山本 高史
	所属：内科	職名：専攻医	氏名：香川大樹

1. 目的

本邦において胃癌による癌死亡数は肺、大腸に次いで第 3 位で、近年減少傾向にあるものの依然として予後不良な疾患であり、切除不能進行胃癌患者における生存期間中央値は約 6～13 カ月とされている 1)。一方で化学療法の進歩に伴い高い腫瘍縮小効果を示し、長期生存を認める症例も経験するようになってきている。切除不能進行胃癌の長期生存や化学療法の治療効果を予測する上で、いくらかの既報において腹膜播種、骨転移や ALP 高値などが予後不良因子として挙げられているが、これらに一定の見解は無い 2)3)。既報で検討されている化学療法の薬剤は新旧を含め様々であり、またデータベースから抽出した解析の報告や新規薬剤に対する前向き臨床試験のデータを用いたものが多く、実臨床に沿った患者を対象とした報告は少ない。今回当院ならびに岡山済生会総合病院、住友 別子病院で 2012 年以降に切除不能進行胃癌患者を対象として、実臨床における化学療法の効果予測因子、予後予測因子に関する検討を行う事とした。

2. 対象と方法

切除不能進行胃癌に対して化学療法を導入した患者より集積されたデータから、長期予後に関与する因子を同定する。化学療法開始から死亡までの生存期間（OS: Overall survival）と患者背景、臨床データ、使用した化学療法との関連性を比較検討する。

- ・化学療法施行後の治療効果判定と患者背景、臨床データを比較検討し、化学療法が奏功する因子を同定する。
- ・化学療法の治療効果と OS の関係性について検討する。

3. 研究期間

津山中央病院ならびに岡山大学病院、岡山済生会総合病院、住友別子病院、福山医療センター、岡山赤十字 病院、姫路赤十字病院、広島市民病院、岩国医療センター、四国がんセンター、福山市民病院、倉敷中央病院、岡山市立市民病院にて 2012 年 1 月 1 日～2018 年 12 月 31 日までに切除不能進行胃癌と診断され化学療法を開始した症例を集積する。

4. 調査票等

研究資料にはカルテから以下の情報を抽出し使用させていただきます。あなたの個人情報は削除後匿名化し、個人情報などが漏洩しないようにプライバシーの保護には最新の注意を払います。

- ・年齢、性別、家族歴、既往歴、嗜好、診察初見など
- ・検査データ、画像データ、手術記録、病理記録など
- ・治療内容、有害事象など

5. 情報の保護

調査により得られたデータを取り扱う際は、被検者の秘密保護に十分配慮し、特定の個人を識別することができないようにします。

個人情報には完全に秘匿されておりますのでご安心下さい。もし患者様自身やご家族の情報が研究に使用されることについてご了承頂けない場合には研究対象としませんので下記までご連絡下さい。

津山中央病院 病院長 林 同輔

連絡先：電話 0868-21-8111 (担当：内科 竹中 龍太)